令和２年度　保育園の自己評価

令和３年３月末日
社会福祉法人　翔福祉会
かりゆし諸見保育園
園長　喜屋武　央

テーマ「かりゆし諸見保育園での保育をもっと楽しくするために」

○当園が目指す保育とは？

・日々の子ども達の姿から、保育者同士で語り合い翌日の保育を紡ぎだすことだと考えます。(日々の生活の重視)

○その保育を実現するための課題

・保育者の膨大な事務量の見直し

・保育者の重複した内容の事務の見直し

・子ども理解（未熟な存在から有能な学びてとしての子ども理解）

・子ども達の育ちを保護者と共有する

○課題改善に向けての取り組み

・おたより帳の複写化

・多用途資料としてのポートフォリオ（個別成長記録）の導入（※1）

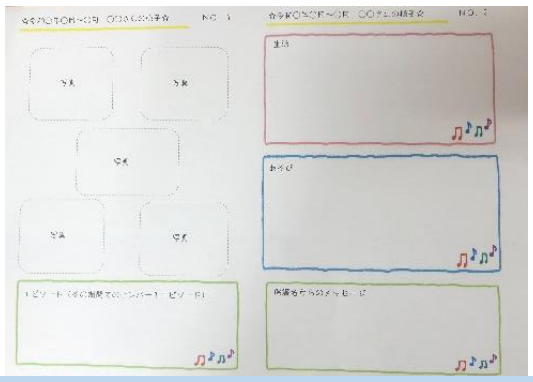
（肯定的視点での子どもの姿の受け入れ）

・ボードフォリオ(子どもの学び、発見、育ちを共有するツール)の導入

・法人勉強会での外部講師依頼（※2，※3）

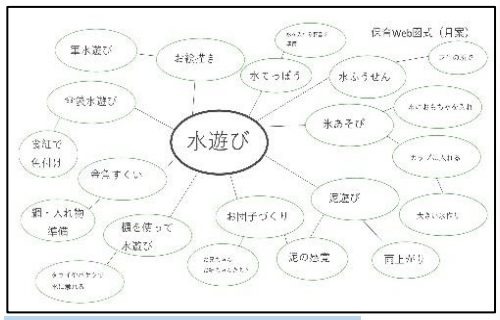
・オンライン研修の積極的な導入

・素晴らしい実践を行う保育園の視察



※１　ポートフォリオ（個別成長記録）

※２　岡花祈一郎先生



※４　保育 Web 図式

※３　法人研修中の様子

○課題改善の中から見えてきたこと、令和３年度の取り組みへのバトン

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により日常が非日常に変わった一年となった。保育園でも日々新型コロナウイルスの対応に試行錯誤しながらも、子ども達ができるだけ通常の生活が送れるよう職員一同取り組んでいたように思う。

保育では「日々の子ども達の姿をとらえ、保育者同士で語り合い翌日の保育を紡ぎだすこと」を目標に日々の生活を重視した保育を意識した。膨大で内容の重複している保育士の事務内容の見直しを行い、おたより帳の複写化による保育日誌との一元化、ポートフォリオ（個別成長記録）を多用途で活用することで事務の簡素化を図った。事務の簡素化を行ったことにより子ども達の姿を語り合う時間の捻出に繋がった。また、ポートフォリオの作成が「子ども理解」を考えるきっかけとなり、年に 2 回行う法人勉強会では琉球大学の准教授である岡花祈一郎先生の講義により「子ども理解」の重要性についてより深く考える機会となった。クラスだよりの内容の見直しでは「保育の見える化」を意識し、「連絡事項の伝達」を行うツールになっていたクラスだよりから、保育園での子ども達の学び、発見、育ちを専門職としての視点を通したボードフォリオ（壁新聞）にすることで「保育の見える化」を行うツールになった。オンライン研修の積極的な導入では、普段は県外での開催の為参加が難しかった研修がオンラインでの開催になり、有名な講師陣の研修を積極的に受講できた。また、普段は 1 つの研修に多くても 2 名程の参加で、学びを園全体で共有することが研修の課題であったが、学びの深い内容の研修を全員で共有できたことは大きな収穫となった。平成 30 年度から年に数園行っている保育園視察では、当初は素晴らしい実践を行う県内、県外の保育園の視察を予定していたが、コロナ禍での県外の保育園視察は断念し、コロナの状況を見ながら県内の保育園の視察を行った。改めて他園の保育に対する考え方や取り組みに触れることで自園の保育を考えることに繋がった。

以上のように非日常であった年で職員もそれぞれいろんな思いがある中でたくさんの見直しを行えたのは、職員一人ひとりの理解があってのことだったと振り返りながら思い、改めて職員一人ひとりが理解し実践してくれたことに感謝したい。

令和 3 年度は、引き続き法人勉強会にて「子ども理解」について全体で考える機会をつくり、さらに「子ども理解」について深めていきたい。また、個人で作成していた保育計画の見直しを行い、複数人での対話の中から作る保育計画になるよう保育 WEB 図式(※4)を活用した保育計画の作成を行い保育者が子ども達の姿を対話しながら作成していく保育計画化を目指す。まだまだコロナ禍ではありますが、さらなる「保育の見える化」を行い保護者と共に子ども達の育ちに関わることに自覚と責任を持ち、専門職として保育を考え続ける保育者集団でありたい。

参考文献

・012 歳児保育「あたりまえ」を見直したら保育はもっとよくなる/監修　足立区教育委員会就学前教育推進担当　・　編著　伊瀬　玲奈

・日本が誇る！ていねいな保育/著　大豆生田　啓友　・　おおえだけいこ

・育ちあいの場づくり論―子どもに学んだ和光の保育・希望編/鈴木まひろ　・　久保健太